



《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635

新潟県立新潟高等学校内

TEL 025-266-5268

FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長谷川 義明

《印刷所》

オリオン印刷株式会社

〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1

TEL 025-283-2151

FAX 025-283-3804

ご挨拶

会長

長谷川 義明 (61回)



新潟市はいま周辺の市町村と政令指定都市を目指した大合併を果たそうとしています。

75回卒業の篠田昭市長の下、この大事業にとりくんでおられる皆さんの大変な努力に心から敬意を表したいと思います。

現在の新潟の繁栄は、二十世紀を代表する大事業といえる大正三年(一九一四年)の沼垂町との合併とそれに伴う沼垂地区における近代的港湾の整備によるといっても過言ではないと思います。港町新潟の発展をもた

らした先人たちの英知と努力に感謝しなければなりません。そして今回も「大合併と政令指定都市の指定」も二十一世紀を代表する大事業として新潟の発展に大きな効果をもたらすこととしましょう。多くの同窓生たちもこの大事業に関わっておられますが、その実現に向けて英知を傾け努力をしている皆さんの頑張りを応援したいと思います。

青山の同窓生は全国あるいは世界の各地各分野で立派に活躍しておられますがその活躍の姿を拝見することは実に頼もしく、嬉しくまた誇りにも思えます。同窓会としてもできるだけ多くの同窓生の活躍の成果や活動の状況について広く同窓生に紹介する機会を持ちたいと考えております。このため会報に活躍しておられる同窓生のインタ

ビュー記事の掲載や、新春交流会における舞台演奏をお願いいたしました。が、今秋から新たに母校の階段型になっている立派な視聴覚教室を利用して「青山学術文化講演会」として同窓生による講演会を開催したいと企画いたしました。同窓生の活躍が、地元新潟への地域貢献のみならず広く国際社会、人類社会への貢献という大きな役割を果たしておられることを喜ぶと共にその成果を整理し、共有させていただきます。共々

一〇周年を期しての学校の環境の整備も他校に比べて大変立派に進んでいるように思いますが、なを教育環境として必要な整備について学校側の期待も大きいようです。同窓会としても現役諸君のがんばりを期待する意味でも出来るだけのご協力はしてまいらなければならぬと考えます。同窓会員各位のご理解を賜りたいと存じます。

青山学術文化講演会開催のお知らせ

青山同窓会会長

長谷川

義明

青山同窓会では今年度下記のような学術文化講演会を企画しております。会員の皆さんの参加をお待ちしています。

「平成16年度青山学術文化講演会」開催要領

1. 開催の目的

新潟高校同窓生で、各界で活躍しておられる方々から、有意義なお話等をいただく。一般にも公開し、関心ある市民に、学術文化に触れる場を提供する。

2. 開催予定日

2004年10月9日(土) 13:30～16:00(13:00開場)

3. 会場

新潟県立新潟高等学校視聴覚教室(予定)

4. 定員

400名(先着順)

入場無料

5. 講演予定者

小林昌二さん (69回卒)

新潟大学人文学部教授

演題 「沼垂城木簡と、みなと新潟のルーツ」

渡辺忠明さん (73回卒)

環境庁～(株)建設環境研究所

演題 「環境は経済の足枷か」

岡村知子さん (97回卒)

古典舞踊教室「ビディヤ・カラー」主宰

演目 「インド舞踊」

順番は変更になる場合があります。

なかなか聞けないお話、見れない舞踊です。お楽しみに!

参加ご希望の方は、同窓会事務局まで、往復はがきでお名前と人数をお申し込みください。定員になり次第、締め切らせていただきます。なおマスコミ等で告知し一般の方にもご案内いたします。

青山同窓会：〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635

新潟県立新潟高等学校内

電話：025-266-5268

いあいさつ

前校長 宮沢 稔



このたび、新潟高校の校長を最後に、公立高校を退職いたしました。同窓の皆様方には、何かと指導・鞭撻をいただきまして、誠にありがとうございました。

デンテイテイ、教職員の共通理解の確立に努め、約五十年ぶりに教育目標の見直しを行いました。

在職中に、創立一〇周年を迎えるとともに、本校四代目となる新校舎が竣工いたしました。青山同窓会の物心両面からのご協力により、新校舎竣工・創立一〇周年記念事業を順調に進め、記念式典及び祝賀会を無事、盛大に実施することができました。学校を去るに当たり、改めて衷心よりお礼申し上げます。

この間、時代は二十世紀から二十一世紀へと移り、社会の変化や価値観の多様化が急速に進んでいます。本校でも新校舎の竣工を機に、本校教育のあるべき姿、生徒像について教職員全体で検討し、学校としてのアイ

理解ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

さて、私はこの四月から新潟明訓高校に勤務しております。校長としては三校目になります。が、またまた新校舎に入ることになりました。「またまた」と申しますのは、一校目が国際情報高校で新設の新校舎、二校目が新潟高校の改築にあたり、また新校舎でした。そして、明訓高校は、現在、新潟市北山に新築中で、この八月に移転するこ

新任のいあいさつ

校長 小林 崔



この四月、本校に着任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

遠くイラクで戦争があり、九州で小学生による殺人事件がありと、心穏やかではいられない事などが報道されています。事象の意味を考える間もなく、更に想像を絶するような事件が次々と起こり、人間の思考や感情が、現実のスピードに置いて

とになっており、またまた新校舎にということになりました。新校舎というのは移転等で大変ですが、やっぱり新しいということはいいものです。新たな気持ちでチャレンジしていきたいと思っております。

最後になりましたが、青山同窓会並びに同窓各位のますますの発展を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

ときぼりをくわされて、我々の神経が麻痺しているかのような困った世の中ではありません。さて、学校では伝統の青陵祭が終了いたしました。部活動も北信越大会が終わって、生徒たちは必死で「モード」の切り替えを行っているところです。平成十六年度も三ヶ月が経過して一段落、これまでの感想やらお願いやらを記してみたいと思います。

私が気になっていることの一つに、最近の高校生は「大きな声を出さない」「出せない」ということがあります。学校によつては、校歌や応援歌を歌う

ときでも、口も開けずに、じつとしている生徒たちの姿を目にします。こうなるとますます元気が出なくなり、何ごとにも集中力を欠くことになるのではないかと要らぬ心配までしている始末です。

ところが、新潟高校では「ますらを(丈夫)」を斉唱する機会が多くあります。つまり、腹の底から声を出す(出させられると言った方が正確かもしれませんが)機会が多い。その結果、腹が膨れる機会も少なく、いつでも素直な気持ちになれるのではないかと本校の生徒は

集団行動がきびきびとして、あの青陵祭の盛り上がりができていくのだと確信した次第です。また、こういう行事を通して、新潟高校の伝統が、魂となって、子どもたちの心の中に浸透していくのだということを、あらためて感じたところでもあります。

次に、私が昔から不思議に思ってきたことがあります。それは、人生のほとんどの時間は、高校以外で過ごしているわけ、高校生として学び、遊び、クラブ活動をして過ごしたの

年代が違っても、共通の話題や懐かしい名前が直ぐうち解ける、三十年、四十年ぶりに学校を訪れて廊下を歩いてみたら、思わず校歌を口ずさんでいた、こういったことがどうして起こるのか。誠に不思議に思うのであります。もしかしたら自分の育った環境にたたくすみ、自身自身の存在を確かめ、アイデンティティを求める心境がそうさせるのかもしれない。そうであるならなおのこと、先輩方には厳しい注文も期待したいものです。

これからも、毎年、卒業生が羽ばたいていきます。また、青山同窓会は百五十年、二百年と歴史を刻んでいきます。後輩の育成にも、これまで以上に、力を貸していただきたいとお願ひをしてお挨拶に代えさせていただきます。



青山同窓会新年会報告

例年参加者が限られていた同窓会新年会を変えようというこ
とで、今年から新しい企画を盛
り込み、二月二十七日(金)グ
ランドホテルで新年会が開催さ
れました。新潟市長篠田昭さん
(75回)の都市経営のお話、そ
して乾杯後はフンタ・ブラー
バ(瀬賀倫夫77回)による
バンドネオンとギターのアン
サンブルによるアルゼン
チン・タンゴとフォルクロー
レの演奏が三〇分ほどあり
ました。両企画とも新年会に
新たな風を吹き込んでくれ
ました。また、各期幹事のこ
尽力により百八十一名もの
参加者があり、お陰様で盛況
の中で開催することができ



ました。立食パーティー形式等
につきまして、事前の通知が徹
底していなかった点など、今後
改善していくべきことがありま
すが、今回のように数多くの参
加があると事務局として嬉しい
限りです。

東京青山同窓会二〇〇四年度

新人歓迎会・講演会

六月十八日(金)梅雨の中休
みの蒸し暑い中、今年も東京全
日空ホテルで今春卒業した112回
生十六名を迎え新人歓迎会が盛
大に開催されました。第一部の
講演会では文藝春秋に長くお勤
めになり、現在東海大学文学部
教授の湯川豊(65回)氏が「世
界をひろげる」というテーマで
「世界は知らないことばかりで
ある、本を読めば読むほど知ら
ない世界が分かってくる。」で
すから新人学生は本をよく読み
ましょう!と講演されました。
湯川氏の話が聞きたいという
ことで、柴俊夫・真野響子夫妻
が特別ゲストとして会場に來ら
れ、華を添えてくれました。第
二部はお待ちせしました懇親
会、東京青山同窓会名誉会長齋



藤信雄(44回)氏の名コメント
のあと乾杯、時間がたつにつれ
新人達も雰囲気慣れ、先輩・
同期と交流を深めていました。
最後の「丈夫」、菊池隆(74回)
氏が「そろそろ代変わり」と
言う中、名調子で元氣よく会を
締め下さいました。二次会も
恒例の「日本海庄や」。幹事が
困るほど人が集まり盛況。暑い
夜の東京は、青山同窓会も暑く
過ぎて行くのでした……。

新潟高校PTA会長交代となる



PTA会長が、吉田至夫君(79回)(写真右)から丸田拓雄君(83回)にバトンタッチした。2人はしっかり握手をかわし友情と会長職を引き継いだ。吉田君ご苦労様でした。丸田君のご活躍を祈ります。

新潟高校

PTA会長退任のご挨拶

吉田 至夫(79回)

青山同窓会の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り、退任にあたり厚くお礼申し上げます。二年前は「ゆとり教育」全盛。学校完全週五日制が施行。土曜日活用はPTAが編み出した対応策でした。それが今は「確かな学力」。生徒こそ被害者です。その落差の大きさを片隅で垣間見たと思います。どっこい青陵健児は負けておりません。私立躍進の前に全国

の公立校が次々と討ち死にする中、新潟高校はその牙城をしっかりと守り、文武両道、丈夫ぶりを高めております。「生徒こそ主人公」。このことを、団結堅き青山同窓会、熱心な保護者、そして学校長はじめ教職員の皆様の誇りが三位一体となつて後押ししてきた証ではないでしょうか。私自身、良い経験をさせていただきまして、今後とも一人のOBとして、わが母校、若き丈夫たちにエールを送り続けてゆきたいと思っております。

「あいさつ」

PTA 会長

丸田 拓雄 (83 回)

今年度の PTA 会長を務めさせていただくことになりました丸田でございます。非力ではございますが、生徒達のため、関係各位とともに PTA 活動をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

さて、本校では同窓会の皆様のご支援もございまして、平成十三年に新校舎竣工と創立百十周年の式典が行われました。そして、翌十四年から教育制度改革による完全学校週五日制の実施により、その対処として、土曜活用を始めました。

当時の PTA の皆様は、大変な努力をされたことと思えます。おかげ様で、現在すばらしい環境で生徒は学校生活を送っています。

幸い、今年度は大きな課題はないようでございますが、しかしその分、本来の PTA 活動に専念できるのではないかと思えます。

主役である生徒が、より快適な学校生活を送れますように。そして、それぞれの生徒が次ぎなる目標を達成できますよう

に。この点が重要なところであると思えます。

今後とも、同窓会の皆様のご支援、ご指導のほど、お願い申し上げます。

門 訪 生 窓 同

阿賀野市長 本田 富雄 (46 回) を訪ねて

(会報編集委員) 岩原 朋子 (93 回)



六月の素晴らしくいいお天気の日。青山編集委員のメンバーと阿賀野市役所に大先輩 46 回卒の本田富雄市長を訪問しました。安田町長を十期務められた後、今年四月一日に安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村が合併して新しく誕生した阿賀野市の初代市長として八十二歳にして新たな目標に向かって頑張っておられます。

本市市長の旧制新潟中学校時代(一時間五十分かけて自転車を通ったそうです!)の軍事教練のお話、戦時中の満州での鉱山調査の技術員をされていた時のお話など、時代が違うとは言え、若者が個人的な希望などより国の為に生きることが当然だったことを改めて知りました。でも、この時代の「無茶な生活」のあれこれが、知らず知らず今の元気な身体を作ってきたとも言えるので、何が幸いするのは本当にわからないものです。

戦後、村会議員・助役を経て昭和四十二年に安田町長に初当選されたその年の八月にこの地域では未曾有の大災害(8.28 水害)が発生しました。この水害での惨状・犠牲となった七名の死によって、本田町長(当時)は決して再びこのような災害の起きない政治に取組むと「腹をくくった」のだそうです。それ以来現在までこの道一筋ほぼ半世紀。約五十年のスパンで動きがある地方自治編成の見直し、いわゆる市町村合併も二度目という頼もしさです。

本田市長の走り続ける為の目標は、どうやらわざわざ設定する間でも無く「目標」の方から市長の方にやってくるようです。阿賀野市の十一年計画の話

校 歌 ・ 応 援 歌 1

校 歌 ・ 応 援 歌 について

旧職員 関根 彰圓 (59 回)

校歌や応援歌を斉唱すると、同窓生は深い感慨と強い連帯感を自覚します。また湯船の中でひとり歌えば、天下を取ったような気分にもなります。ところで本校の校歌・応援歌について疑義が提起されはじめたのはいつ頃のことでしたか。とにかく事の起りは昭和十五年軍国的風潮の中で、文部省が全国の校歌に不適切な文言があると決めつけて、歌詞の修正を強行したところにあります。本校も校歌第四番と五番に大きな被害が及びました。これが戦後の混乱の中で放置されたまま今

- ①新潟高等学校校歌

昭和二十七年、創立六十周年を記念して作られたのが、堀口大文学作詞、大和田愛羅作曲の作品であり、原詞の通り歌われております。
 - ②新潟中学校校歌

大正十一年、創立三十周年を記念して作られたのが、相馬御風作詞、大和田愛羅作曲の作品であり、原詞は左記の通りであります。
- なお、昭和十五年文部省の改訂した歌詞は(一)に入れて併記しました。(一部は文部省認可のまえに変更されたものも含んでいます)
- 1、玲瓏の天あふぐ時
胸颯爽の意気に充ち
廓寥の地をのぞむ時
雄図にあつき血ぞ躍る
讚へざらめや青春の
光不滅のわが生命
 - 2、見さくる越の野はひろく
吹く風清き青山や
千古に盡きぬ長江の
ゆたけき流れのぞみつ
北斗燦たる空の下
青陵健児われ立てり

同 期 会 報 告

82期 卒業三十周年記念同期会開催!!

3, 怒濤さか満く日本海
天そり立つ彌彦山
いかでかそこに隠れたる
自然の黙示ならめや
希に剛健と質實ぞ
青陵健児の生命なる

4, 時流はいかに濁るとも

(は)

わが校風ぞ彌清く
文にはた武に幾十年

(に名を挙げて)

裏日本の覇者として

(に充てる歴史こそ)

光輝をかへぬ歴史もて

(の誇りなれ)

青陵健児ここにあり

5, いざわが友よもるともに

(真白き砂の丘の上)

白砂塵なき丘の上

常磐の松の下かげの

誓盟を永久にかためつつ

青陵健児のかんばしき

榮譽をあげむ彌高く

応援歌についてご指摘があれば、このコーナーでご報告したいと思っておりますので、同窓会事務局まで一報ください。今後も応援歌をこのコーナーで取り上げていきます。

前夜祭から各種記念イベント、
パーティも大盛況!

実行委員長 小林しほり (82回)

風薫る五月、快晴のもと、わが82期の卒業三十周年記念同期会が、前夜祭を皮切りに二日間に渡り開催されました。82期では卒業二十周年から五年毎に同期会を開催していますが、やはり三十周年は力の入り方が違い、久々に顔を合わせる同期生に、過去・現在・未来の我々の姿を、育んでくれた新潟という地も含めて感じてもらおうと、本会のみならず各種イベントに趣向をこらしたものとりました。

まず、五月一日の前夜祭は「喜ぐち」に約二十人が参加。前日からこんな盛り上がりつつよいのだろうかと心配したくなる程の盛況ぶりでした。翌日、五月二日は午後から母校に集合し、「校舎見学」と「記念講演会」が開催されました。今回、記念同期会のキーワードの一つに「与えられる側から与える側へ」があり、従来、先生方においていた「想い出の授業」から一歩成長し、同期生を講師に仕立てたミニ講演会を企画し

ました。日下部朋子さん(J-CLUB代表取締役)、寺田員人君(新潟大学医歯学総合病院助教)、渡辺健二君(新潟県醸造試験場長)と、夫々が各界第一線で活躍されている三人であるだけに、パワーポイントを駆使したビデオ、話の充実度、タイムマネジメントも満点で、参加した約五十人の先生と同期生からは称賛の声が相次ぎました。

この後、信濃川ウォータースタイル「アナスタシア号」(栗原道平君が社長)に乗船し、新しい新潟の姿を川面から見学、パーティ会場のみなとびあ内「レストラン・バンクシーダ」に向かいます。この会



場は、四月二十七日にオープンしたばかりの新潟市歴史博物館に隣接し、旧第四銀行住吉町支店を移築した新潟の古きよき時代を感じさせる重厚な建築物。また、船内とパーティ会場内では吉岡浩君のお父様が撮影された当時の青陵祭のフィルムが上映され、気分を盛り上げます。同期会総会の司会も担当している駒井早苗さんの第一声、実行委員長・小林の挨拶、渡辺精也先生の祝辞・乾杯で幕を開け、新潟の海の幸・里の幸が満喫できる料理と、JA岩船幹部の佐藤度君提供の村上牛に舌鼓を打ちながら、雰囲気は最高潮に達しました。この日、出席された先生は十六人(飯塚、池田、石黒、石崎、上杉、小田、上村、沢田、柴野、関根、立川、奈良、葉葦、本田、山岸、渡辺(五十音順))

の各先生方。同期生合わせて約百二十人が参集する中、恩師のお一人お一人から授業の一幕を彷彿とさせるシーンや、中年真つ只中の我々への言葉をいただき、むしろ元気づけられる

かたちとなつてしまいました。奥田健君をカメラマンとして記念撮影の後、応援団長・吉岡浩君の「ますらお」、エールと、福田勝之君の「最後の一人になるまで、この同期会を続けよう!」という力強い言葉と三本締めで、再会を期し、本会をお開きとしました。その後、二次会場へは七十人以上が参加し、延々、夜の新潟の街へと消えて行きました。

今回のもう一つのキーワード「できるだけ不明者を減らし、多くの参加を呼びかけよう!」も、専用ホームページの立ち上げに

より、出席者の現況報告、不明者リストの公表、写真送付等の手間が著しく緩和され、効果を発揮しました。I.T関連の中心となつて動いてくれた加藤雅之君を始め、実行委員全員に感謝します。

最後に、連休の始めにも拘わらず、母校でのイベントに快く協力をいただいた小林校長先生、吉原教頭先生、阿部先生、そして、我々からの突然のお願いや細かい問い合わせにも全て丁寧に対応してくださった同窓会事務局の外山さんに、心より御礼申し上げます。

第84回同期会へハチヨン会開催

宮崎 清也 (84回)

二〇〇四年(平成十六年)一月二日午後二時から一九七六年卒業生の第84同期会を新潟市の新潟ランドホテル開催しました。二〇〇一年開催に続き、二回目となります。今回は百一名が出席し、先生方も五名が出席くださりました。前回の百九名出席に続き、多くの同期生が参加してくれました。ありがとうございました。ホテルの好意により、会場を移動しないまま、二次会に突入し、閉会は午後七時。五時間もの大宴会でした。テーブル着席+ピュッフェ・バイキング式です。長時間利用が可能となつたのです。その後、古町に繰り出し、五次会が終わったのは、さて、何時だったでしょうか?・覚えていますか?・初回の緊張感も薄れ、準備作業ものんびりとしたものでした。二〇〇三年九月によく作業に取り掛かりました。幹事諸君に負担が掛かりました。

法を考え、実行しました。開催準備に頭が痛い各学年幹事の方々へ、以下、説明申しあげます。



同期生全員への開催案内は、新

期生全員への開催案内は、新

とおり、長髪、ロングマフラー、トレンチコート？です。一目でわかりました。まったく変わり

加会費はその指定口座振込みのみに限定しました。

ない元気な姿で、皆の喝采を受けていました。

入金都度、郵送で振込用紙控が送られてきます。そこには、振込者の住所氏名電話番号が記載してあるので、出席者名簿は自動的に出来上がりです。

次回、二〇〇五年開催は、卒業三十周年記念授業付きの同期会です。先輩諸氏のご指導を仰ぎながら無事に開催できるような準備作業に取り掛かろうと思えます。ご指導のほど、よろしく

振込用紙を数えていくだけでよいのです。このように、全員への告知、参加者人数の把握、会費徴収の全てが、簡略化された開催準備でありました。当日の全員装着の名札作成のみは、木村正芳君の協力で、正月一日に手作業しました。六時間にもわたる、面倒な手作業をありがとう。会場で、顔を見て、誰が誰なのやら、さっぱりわかりませんので、同期会では、名



O B 会 報 告

巨星、墜つ

中川 弘 (58回)

今年も、又七月九日の青山同窓会の案内がついた。青山体友会は、二つの悲しみを記さなければならぬ。平成十六年三月三日堀保利氏九十六歳(34回卒)と平成十六年四月二十六日中山仁氏八十四歳(45回卒)の逝去である。

堀氏を新鴻の体操の種まき者とするなら中山仁氏はそれに立派な実をつけた先人といえる。新鴻の体操は二人の先輩をおいて語ることは出来ない。生まれた以上は死ななければならぬといざ死への直面すると、人間とは。と考えさせられる。一時中断した青山体友会も復活して一回も休むことなく一回を迎え、今年も十月に開催しようと思っているが、その時も、黙祷し悲しみを報告しなければと思うと寂しさがこみ上げてくる。

堀氏は同級の故樋口政忠氏(34回卒)と体操は特に幼少の頃からの訓練が大切なことに着目し、その頃大谷武一氏を中心として発案された低鉄棒運動に取り組み休みを利用して上京

し、そのときの宿舎が当時文部省体育研究所にいた近藤圓氏(38回卒)の下宿である。その運動法は勿論設計・施工まで身につけて帰鴻。新潟市内に止まらず、広く県内の小学校に低鉄棒が普及し、それが体操競技として、開花していくのである。中山仁氏は、この頃に特に技能にすぐれ、体操同好会として、試合に出場し、数々の成績を、あげられ、それが認められて、体操部としての予算がつけられ、体操部が出来たのである。いづれも過去の血みどろの努力が基礎となり今日があると思うと現在体操部がないのが、はがゆいが、進学校、器具の高額な購入費、指導者の不足、ジュニア選手の他校への誘導等のためか。

いづれの日にか、体操の復活を夢見て青山体友会は応援を惜しまないのは私一人ではない。体操を愛し体操を育てたいくたの先輩を生んだ体操部、栄光ある青山体友会、体操をするための毎日がある若き血は、体の中を今日も生きている。

青山水友会は母校水泳部の発展に寄与し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的として旧制県立新潟中学校・県立新潟高等学校水泳部に在籍し、本人から非入会と申し出のない33回山添三郎より112回韓奥博迄三百十五名の会員で構成され、大正九年に発足し今日に至るものである。新鴻中学水泳部は明治三十二年来港し神伝流自然派の指導・普及につとめた村山正臣の高弟竹山九朗のよって創始されたと思われ、註1 17回青山貞三21回江口文助赤井一石田与吉24回師尾源蔵等の方々が寄居浜の茶屋を根拠として専ら海と親しみ、伝馬船を建造して内野遠泳等に意気上げて居られた。併し32回山添武が原書を翻訳して世に先駆けクロール泳法を水泳部に指導され、大正十一年の二回房州の東京高等師範の合宿に参加して部員の実力向上し、大正十三年インターミドル一〇〇M自由形に32回北村博繁優勝と言う快挙を成し遂げた。註2

かくするうち、波の無



水上 於 68 古いも若きも昔懐かし、赤フンしめて

青山水友会

大黒 善彌 (50回)

い淡水での練習を求めて、臨港通船川の臨港プール、閑屋掘割、ホテル新潟前の村山プールなどで泳いだり、やはり自校にプールが欲しい、必要である、とのOB・現役のプール建設の熱望と奉仕的努力の結晶として、昭和八年創立四十周年にプールが完成した。私は昭和十三年に新鴻中学校水泳部員となり、暫時の間即新入部員歓迎小豆湯会の頃まで優しく扱われたが、その後は新入生として種々好ましくない雑務の遂行が義務となりしまったと思つたが後の祭りであつた。併し夏休みになり進学された先輩がプールへ泳ぎに来られ、十

フェンシング部

OB懇親会の報告

遠藤 聡一 (87回)

一月二十四日(土)古町越路会館において、フェンシング部OB懇親会を行い、お忙しい中、青山同窓会副会長石田瑞穂様、歴代顧問の滝沢強一先生、赤井田秀光先生、OB十四名にご出席を頂きました。今回は正月の曜日がOB会開催に合わず、出席しにくい日程であったためか例年より少ない参加者となりました。しかし、参加された方はフェンシングの話や、高校時代の話で大いに盛り上がりまし

た。今後とも開催時期を工夫し、歴代顧問の先生、三百五十名のOBの交流を目的に、また現役への支援の意味も含めて、年一回はOB懇親会を開催する予定であります。和気あいあいとした楽しい懇親会ですので、お誘いあわせの上多くの先輩方にご参加いただければと思っております。

二〇〇九年には新潟県聖籠町で二巡目の国体が開催されます。成年男女、少年男女に新潟高校フェンシング部の部員や卒業生が活躍できますよう、先輩の皆様からご協力を頂きたく本紙面をお借りしてお願い申し上げます。

山岳部創立五十周年祝賀会のお知らせ

山岳部は昨年創立五十周年を迎えました。記念事業として会員の皆さんには「ふくろう」を配布しておりますが、併せて祝賀会のご案内を下記の通りさせていただきます。

山岳部は昨年創立五十周年 ます。懐かしい山仲間と共に、を迎えました。記念事業として 一時をお過ごしくださいますよ、会員の皆さんには「ふくろう」を配布しておりますが、お問合わせはオリオン印刷(株) 石沢まで

日時 八月十四日
午後三時～六時
場所 万代シルバーホテル
新潟市万代一
〇二五―二四三―三七一一
会費 社会人 一万円
学生 三千円

ボート部OB会 青山艇友会総会開催

渡辺 研二(75回)

ボート部OB会は、会員相互の親睦と母校漕艇部の発展を図ることを目的としており、そのために、会報、会員名簿の発行、新潟高等学校ボート部の後援やその他必要事業を行なっています。

平成十六年三月二十一日(日)に定時総会を新潟市の四川飯店で開催。青山同窓会会長谷川会長、県ボート協会原会長のご出席、それに元顧問大橋先生、現顧問吉田先生、立川先生にOBを加え総勢十九名でした。今回は学生の出席と女性の参加もあり、

老いも若きも参加年代の幅が広がっております。
小町聰敏(69回) 副会長が三月二日に逝去されましたので、総会は黙祷で開始。佐藤勝弘(65回) 会長を議長として、議案を審議いたしました。

その後は別室で懇親会に。長谷川同窓会長・原県ボート協会長からご挨拶と情報。顧問の吉田先生からボート部員の戦績と現状等の報告。時間も多くなり話題豊富。現役ボート部員達の練習水域が、信濃川でプレジャーボートが多くなっていることなどから変化していることを聞き、OBとして現役選手達が安全にボート練習に励み、有意義な部活動をしてくれるよう願った次第です。

日曜日の午後、長時間にわたり、昔話に花が咲き、部歌・校歌・応援歌等肩を組み歌い大いに盛り上がり盛会裡にお開きとなりました。

▼出席者十九名紹介
(同窓会長) 長谷川義明
(県ボート協会会長) 原正雄
(元顧問) 大橋禎助
(顧問) 吉田巖(顧問) 立川純
(58) 加藤高弘(58) 五十嵐治
(65) 佐藤勝弘(68) 笠原紘洋
(74) 柘木亮人(75) 吉田芳郎
(75) 渡辺研二(78) 水沼眞一
(78) 河田弘行(80) 桜井 優

名簿完成

平成十六年三月現在の名簿を印刷製本。四月に希望OB・顧問の先生方にお届けしました。卒回、卒年、氏名、郵便番号、現住所、電話の簡単なものですが、四百名を超える住所録となっております。



佐藤会長挨拶



部歌の音頭は加藤副会長



註1 宮村定男 水友会報 1999
註2 山添三郎 水友会報 2003
文中敬称は省略しました。

「傘寿」を迎えた 母校バスケット・ボール部

会長 小川 清常 (48回)



本県は、かねて「籠球王国」と謳われた。その一翼を担った母校は、本年、創部八十周年を迎える。人の一生にたとえらる、「傘寿」を迎えたことになる。わが母校で、初めてバスケットボールが採用されたのは、大正十二年(一九二三年)英会話指導のため、来校した米国人の宣教師エロン・ダウンスの指導によるものであったと、『青山百年史』(九〇七ページ)にある。また、旧制新潟高校の野口教授が、籠球の手ほどきをしてくれたこともあったという。時の校長・名和長正校長は、バスケットボールの教育的な特性に着目して、「バスケットボールを校技とする」とし、大正十三年一月、東体操場に屋内コートを整備し、新潟師範と始めて練習試合を行った。大正十四年度から正式に「籠球部」が発足

を祝して若人憧れの甲子園球場で開催された「全日本中等学校体育競技総力大会、籠球大会」には、前年度優勝校として出場。その感激は、今もお胸中に息づいている。しかし、準決勝まで勝ち進みながら、私がフオーブールで、オミットとなり、

青山バトミントンクラブ

総会報告

高橋 裕之 (84回)

惜敗した無念さと忸怩たる思いは未だ消えない。はからずも青山バスケットボールクラブの会長に推挙され、大会ごとに現役の健闘に身を乗り出している私は「傘寿」を超えたことを忘れさせてくれている。

平成十六年五月二十二日十八時三十分より、ホテル東急インにて平成十六年度総会が開催されました。今回は開催日が土曜日なので、しかも会場が新潟駅前ということもあり、県外の会員の参加者も期待したのですが、そういう意味では残念ながら、新潟在住の会員のみではあります。楽しいひと時を過ごすことができました。

平成十六年五月二十二日十八時三十分より、ホテル東急インにて平成十六年度総会が開催されました。今回は開催日が土曜日なので、しかも会場が新潟駅前ということもあり、県外の会員の参加者も期待したのですが、そういう意味では残念ながら、新潟在住の会員のみではあります。楽しいひと時を過ごすことができました。

総会議事に関しては、平成十五年度の事業報告と決算報告を中心に活発な意見交換がなされました。今年度の事業は、昨年同様後輩の指導に力を入れるべく練習会の開催と、昨年天候不順で実施できなかった恒例の「納涼バーベキュー大会」の復活です。また、本年度より会報を希望する一部の会員(五十人)

なされました。県下全域を網羅した拠点地域型のスポーツクラブで、小学生から一般選手まで統一した指導方針のもとに青少年の健全な育成をおこなうなどの趣旨説明がなされ、入会の勧誘がありました。最後にになりましたが平成十六年度事業予定は次の通りです。できるだけ多数の参加をお願いいたします。

- 平成十六年 5. 22 総会
- 5. 22 春季ゴルフ大会
- 7 未定 合宿激励会
- 8 未定 納涼バーベキュー大会
- 9 未定 合同練習会
- 10. 23 秋季ゴルフ大会

10. 23 行形亭での年末の集い
平成十七年 2未定 新年会

青山剣友会(剣道部OB会)

青山剣友会事務局代表

町田 一越 (95回)

役員

- 会長 関崎 睦男 (45回) 会報
- 副会長 村島 滋 (52回) 年二回 (七・十二月発行)
- 監査 加藤 公則 (90回) 総会・新年会の案内、会の活動報告、会員、母校剣道部の近況を、四百名の会員にお知らせしています。
- 事務局 町田 一越 (95回)
- 会計 小柳 貴裕 (99回)

定例会

総会 八月
 新年度 一月二日
 OB・現役合同稽古会
 (月一回、第三土曜日)

また、月一回の電子メール通信で、合同稽古の案内・大会速報等リアルタイム情報を発信しています。簡単なホームページも会員好意で更新しています。





大会参加
 建国記念県剣道大会（二月）
 や新潟市民体育祭剣道大会（十月）等の大会にOBチームとして参加しております。

母校支援
 合同稽古への参加や部活動費援助を行っています。

また、青山剣友会初代会長・故平石恒夫氏（33回）ご遺族からのご寄付を基に優勝カップを作成し、近隣高校との女子親善試合「平石杯」を後援しています。平成十六年八月には第四回目の開催を予定しています。

今年のインターハイ予選（六月四日―六日）において、母校剣道部三年生の山際由香里が、女子個人戦で準優勝し、新潟高校剣道部としては十五年振りにインターハイ出場を決めました。富山で行われる北信越大会・島根で行われる全国大会へ向けて支援して参ります。

ハイティーン水泳 連載終了にあたり

第三十四号同窓会報（昭和五十七年一月発行）より、ハイティーン水泳の連載が始まりました。第一回目は「1. 田舎者の入学」2. 水泳部入部の日」3. しごきの応援歌」。以降、二十二年間（第39回）まで連載が続きました。平田大六氏（60回）の記憶力のすごさに感服するとともに、軽快な文章は、同窓会報の衣服の清涼剤でありました。長年の執筆のご苦労に編集委員会一同深く感謝申し上げます。次第です。（編集委員会より）

ハイティーン水泳 新中・新高 39 完

平田 大六（60回）

68 インターハイ出場

一九五一年七月二十日、招かれた日本大学の水泳部の選手が新高のプールにいられた。四年生の、茶畑大（自由形）、野網英一（平泳）で、お二人とも四国の出身だった。レギュラーではなかったけれど、めつぼう速い。私たちは、それで、まずひきつけられた。

早速はじまった。

「平田、お前は長距離か、これから千五百泳げ。百m単独のベストはいくらだ？」

「一分〇五秒八」

「ラップもそれで入れよ」

「途中で浮いてしまいます（註）」

「バカ。練習で浮いたついでいんだよ。試合で勝つために練習するんだ。最初からブツとばせ！」

この時のラップは〇六秒三だった。いつも十一〜十二秒で入っていたのに。

二人の選手は、立川正博先輩（37回）の好意で古町の「畑新」に泊まっていたが、後 半は立川さんの自宅だったと思う。大黒善弥監督（50回）は、日大の

選手に「城を開けたし」てしまった。むしろ、アシスタントの役目で協力的だったし、七月末に選手が帰京されてからも、その新しい練習方法を踏襲された。私は、その態度を立派だと思った。

目標は四百で五分、八百 十分三十秒、千五百で二十分を切ること。しかし四百で〇一秒、千五百で〇二秒足がでて、生涯目標は達成できなかったが、全国大会に出場することになった。

横浜野毛山プールでの東部日本高校選手権大会、つまり、インターハイである。大会は、八月十八〜十九日だったが、十三日の夜行で江口良助（61回）と上京した。三日間、日大水泳部の合宿所で学生と一緒に練習するためである。古橋広之進を育てた村上勝芳監督が、見てくれて、大会にもついてこられた。

四百は予選、準決、決勝六位、千五百は予選、決勝五位だった。私がターンするたびにそばでどなっている茶畑大さんと大黒善弥監督の写真が今でも残っている。なつかしい。

「県より、選手の最大の名誉である石膏のトロフィをもらった。最優秀選手として後藤正幸（佐渡高）と二人」とあり、翌二十七日のそれには「学校に行ったら皆にいろいろ聞かれた。先生にトロフィを見せたら、逆に遠征の人数のことで叱られた、選手の数を水増しして旅

二十日の夕方、すでに新聞で成績を知っていた水泳部員全員が新潟駅に出むかえにきてくれていておどろいた。

（註）疲れて途中で失速すること。

69 新潟県最優秀選手

八月二十六日、長岡悠久山プールで国体の新潟県予選会が、ほぼシーズンは終りかけていた。四百、八百で優勝したあの閉会式で、オマケがついた。それは、新潟県から石膏のトロフィをもらったことである。競争に負けただけで金属が不足していたので石膏製だったのだ。年間成績を通算した賞である。

高さ六十 cm のトロフィの台座に、「勝利を讃えて一九五一 新潟県」とあり、杉箱の裏に「昭和廿六年八月 贈平田大六君」と墨書きされている。

私の日記には、

「県より、選手の最大の名誉である石膏のトロフィをもらった。最優秀選手として後藤正幸（佐渡高）と二人」とあり、翌二十七日のそれには「学校に行ったら皆にいろいろ聞かれた。先生にトロフィを見せたら、逆に遠征の人数のことで叱られた、選手の数を水増しして旅

費をもらっていたのがバレたのだ。県内無敗優秀選手の栄光はこれで帳消しか。ああ。

国体の本番は九月二十一日から、広島県呉市の二河プールである。それまで県内には、都市対抗戦と新潟市選手権の二つがあるだけだから、九月に入ってからの新高プールはもうシーズンオフで、間借りの中央高の藤田陽子、小日山黎子、倉島裕子、北沢美枝子、渡辺敦子、五十嵐八重子、同じく明訓高の菅野泰、私の八名の国体選手のためのようなものだった。

大黒善弥監督は、九月の早い夕暮れの中で、スタート台と対側に自転車と並べそれを他の選手に力いっばいペダルをこがせて照明にし、私たちへの最後のシゴギに情熱をそそがれた。

70 最後のレース広島国体

国体の広島行きは、九月十八日の午後出発し、翌朝大阪で、東京発呉線經由広島行急行「安芸」（乗継だった。大黒善弥監督の発案で、ビート板を車内に持ち込み、向かいのシートに橋渡）して足をのばし楽な姿勢で乗車してゆくという方式だった。女子選手たちは、車中で鼻血のでた私を見てくれたり、宿では私の下着を洗ってくれたり、一時（いつとき）私を亭主

気取りにさせたのである。

本番は九月二十一日だった。四百 m 予選で私は H 組の第二コース。私は二着五分十四秒八だった。十組のレースが終わって大黒善弥監督が数えてくれたら私は八十五名中十四番目で、決勝九名には残らなかった。午後にあつた八百リレーで、私は第三泳者だったが、これも落選だった。

これでオマエの水泳は終わるだ。

ボツリと大黒善弥監督は云われた。こんなふうには私を見守ってくれていたのか、私はうれしかった。もう、力いっぱい泳ぐこともあるまい。期待にはこたえられず申しわけなかった。

70 おわりに

新潟(帰ると、五つの私大水泳部からスカウトの連絡があつた。慶応、法政、中央、同志

社、もちろん日本大学水泳部からも。その頃、磯幸次郎校長は三年生全員を講堂に集めて、「本校の美德は、他から云われずとも自主的に受験勉強をはじめるところにある」というような意味のことを云われた。

年が明けて一九五二年。日本水泳部の茶畑さんから連絡があつた。それによれば、日本水泳連盟の昭和二十六年日本高

校競泳二十傑表の千五百 m で「十六位平田大六・新潟・二分三十三秒四・野毛山・八十九・東部高校」とあつたという。そして、オマエは歴代記録ちようど百位になつていて、つけ加えられた。「歴代一位? それはもちろんヒロさん(古橋広之進)よ」と。

私のハイティーン水泳は終わった。

一九五二年二月二十八日、新潟県立新潟高等学校の第四回卒業式に私は、賞状をもらうからと云つて母を呼んだ。式が終わつてから、もらったのは「表彰状、平田大六、水泳選手として優秀な成績を収めた依て之を表彰する、昭和二十七年二月十五日、新潟高等学校生徒会」というものだった。母は、頭でもらつた賞状ではなかつたのか、とがっかりしていた。

さて、そのときの卒業生一覧の最後のページに、生徒会表彰者が載せてある。その、「体でもらつた」十四名の栄光者の名を記して、後の世まで伝えたい。

市岡弘(レスリング)、伊東次夫(バトミントン)、小川秋実(学生同盟)、小出直(文化部長、榎谷不二男(庶務部長)、小林進一郎(園芸)、笹川薫(会長)、杉野剛博(図書館)、鈴木稔(野球)、高橋嘉郎(庶務新聞)、

林茂(音楽)、平田大六(水泳)、広橋良司(演劇)、渡辺祐吉(議長)。

二〇〇四年五月。私は新潟駅 7 番ホームで、なにげなく、S しばんえつ号の発車を見ていた。澄んだ汽笛の音が一瞬、私の青春をよみがえらせてく

同窓の本

「奇怪な甲子園」
— 明治反骨男の雑記帳 —

近藤 圓 (38 回)



著者 近藤圓(こんどうまどか)氏は、本校38回生であり、

また昭和三十八年から四年間新潟高校に勤務された。

この本は近藤氏が今まで様々なものに書いてきた文章を一冊の本にまとめたものである。各章について簡単に触れておく。

第一章 スポーツに類するもの
永年体育関係(主として体操)に携わってきた経験により、国体・甲子園などに対してするど

れ息がつまった。それは、私が遠征に出発するたびに見送ってくれた仲間たちとの日々だった。一九八二年一月二十二日号

以来、拙稿を掲載して下さった本誌の編集部をはじめ、読んでいただいた会員の方々に厚くお礼申し上げる。

い指摘がなされている。
第二章 教育に類するもの
氏の旧制中学松江中学校に赴任した話は、小説「坊っちゃん」を読むように面白い。

第三章 文人墨客にかかわるもの
会津八一先生の歌碑を建てられた経緯の文は「青山同窓会報」に寄稿済みであるが、青山同窓生にとりましては一読の価値あり。また、氏の歌碑を建てられた「尽力に感謝感謝」。

第四章 社会問題に類するもの
明治反骨男の心意気ここにあり。

第五章 随筆風のもの
読んでいくと、やや氏の毒気にあてられる場面もあるが、こ

こまで読んでくると氏の生き方が伝わってくる。
第六章 私事などに類するもの
人間自己開示をすることはなかなか難しいものであるが、近藤氏はここで自らの生い立ちを書かれています。ここを読むとこれまでのが文章が納得させられる。

新潟日報事業者 製作・販売

富山栄子さん (90 回)
『ロシア市場参入』
に関する大著を出版

上杉 雅之 (60 回)

複数の大学で非常勤講師をしている富山栄子さんは、環日本海研究の中心的学府である新潟大学大学院に一般入学し、二年前にロシア市場をテーマにした論文で博士号をとった。それから今年二月に新進気鋭の学者として、大著『ロシア市場参入戦略』(ミネルヴァ書房)を上梓

したのである。

外科医の富山武美氏(83回)との間に三人の子供さんを育てている栄子さんは、家庭の良き主婦でもある。小柄で瀟洒な容姿の彼女がよくもまあ三百五十ページにも及ぶこの大著を書き上げたものよ、とそのエネルギーと努力に心から脱帽したい。夫君や子供さん、それにこ両親などの協力もさぞかし大きかつただろうと推察される。

著書の内容は、専門的であるが、要は政治変後の経済の高成長を続けるロシア市場への日米独の国際企業の参入の実態や将来像を分析、研究したものである。キャノン、リコー、オリンパスなどの日本企業や米国のロッキード・マーチン、キャタピラー、アイ・ビー・エムに加えて他の各社、更には独企業の参入の詳細なデータが盛り込まれている。著者によると、「ロシア市場には参入余地がある、ニツチ(すき間)があるし、やり方次第ではビジネスを成功させることができるので、ロシアに少しでも関心のある方にぜひ手にしていただきたい思いでまとめ上げた。」とのことである。
全国で活躍されている青山同窓生諸兄姉に是非この大作を手にしていただき、一筋縄ではない「ロシア市場の壁」を打

ち破るヒントを得ていただければ幸甚の至りであります。

著者の期待に沿うかの如く、日本経済新聞は二月十九日付紙



「参入戦略」まとめ

面の「新鴻経済」欄で、また新鴻日報も三月五日付けの「総合・経済」欄でこの大著をとり上げて紹介しているが、ここでは日報の紹介記事を転載させていただきます。筆者の紹介のこの一文よりは更に皆さんの理解が深まるだろうと思いつつ、

親子でも出来ないご恩になった、小川鍛先輩が、私の使いで現れた(横井)美保子に、鳥取で小・中どちらも出たことがないと聞いて『どうやって選挙をやるのだろう?』と不審がられた由、寔に正解である。実に無智ほど怖いものはない。私が最も頼りにした立会演説会は、全候補者が一堂に会して、有権者の前で論戦を戦わすものと思いきや、実際は、候補者が順繰りに演説をする会に過ぎなかった。甲論乙駁、打々発止と、聴衆の面前で、否が応でも 識見

アメリカのトルーマン大統領は、これを受けて、翌二十六日攻撃を命令、七月七日の国連安保理では、英・仏の提案で、米軍指導部を統一司令部とする国連軍が、創設された。はじめ、マンカーサーは、米軍を温存して、日本に十万人の人的資源を求めたが、無軍備・平和主義の前に、日本人の動員を断念せざるを得なかった。

かくて、これまでの占領政策は一擲され、共産党に対するレッドバジが指定され、警察予備隊名下に、旧軍人が吸収された。一方、公職追放者の処分は急遽、対日講和に踏み切り、日米行政協定(昭和二十七年二月二十八日付)の締結を条件に安全保障条約を付して、昭和二十六年九月二十五日日米講和条約を調印した。行政協定とは、一言で言えば、占領行政が続くと云うことで、親日家の印度のネル首相が、『私は貴方の親友です、親友です』と云つてくる物には、気をつけなければならぬ、と警告してくれたのは、この頃である。ともあれ、日米講和条約は、昭和二十七年四月二十八日に発効して、日本は形だけは独立を回復した。

七条の解散権行使した吉田茂首相のもとで行われた。公職追放から復活した者、戦後の政治家等々、すべての候補者が出揃った混戦となった。一番に問われたのは、アメリカの占領政策の転換に基づく、『再軍備是非か』であった。しかも、崇高なる非戦の理念を盛った憲法を持ちながら、世界で唯一、原子爆弾の洗礼を受けながら、なお、再軍備論者の圧倒的な勝利であった。この日本人の水準は、今も変わらない。丸山先生のお考えは、社会党左派の中でも黒田寿男先生率いる良心派、国鉄労働組合では、民同左派に対して、革同(革新同士会)と称された、所謂労働系に近いものであったろうか?。当時先生は、米子鉄道管理局附属米子鉄道病院の外科の院長で副院長を兼ねておられた。も外科が一番充実している。平和憲法の理念はよく分かっているから、だれと論戦しても負けないと偉そうに帰郷したものの、具体的には、どうやって選挙をやるのか?何も分っていなかった私を、快く迎えてくださった。『考えが違っても(同窓なら)勿論、況んや同土では・・・』と、有難いお言葉を

特別寄稿

長恨 丸山 求蔵先生

幡新 守也 (49回)

嗚呼!悲しい哉

大恩の丸山求蔵先生、長逝され、あの空前絶後の慈くしみに充ちた、温容に接することはもう出来ない。筆舌に尽くせぬ穩顔のお写真を拝借します。

若気の至りか、オッチョコチョイか、私は敗戦後の日本の一大転機となった、昭和二十七年十月の総選挙に立候補したこ

とがある。

時恰も、戦後民主主義の申し子、立会演説会が始めて実施されること云う。立会演説会がある以上、だれにも負けない、という自信があった。日本の選挙が

どんなものか、知らぬ者の、半分も知らぬ者が、そう思ったのだから、無知蒙昧、独断以外の何ものでもない。

又、個人的に理論で相手を論破すると、説得したというより、相手は気分を害して、敵に廻り兼ねない。

生来、浮き世・世間というもののだから、ひと様(知人)には、迷惑ばかり掛けたが、中でも群を抜いて、一番迷惑を掛けたお人が丸山求蔵先生であった。

昭和二十五年六月、朝鮮戦争の勃発を境に、民主主義一辺倒の占領政策が一変した。昭和二十五年六月二十五日、北朝鮮が、三十八度線を襲撃、

アメリカのトルーマン大統領は、これを受けて、翌二十六日攻撃を命令、七月七日の国連安保理では、英・仏の提案で、米軍指導部を統一司令部とする国連軍が、創設された。はじめ、マンカーサーは、米軍を温存して、日本に十万人の人的資源を求めたが、無軍備・平和主義の前に、日本人の動員を断念せざるを得なかった。

かくて、これまでの占領政策は一擲され、共産党に対するレッドバジが指定され、警察予備隊名下に、旧軍人が吸収された。一方、公職追放者の処分は急遽、対日講和に踏み切り、日米行政協定(昭和二十七年二月二十八日付)の締結を条件に安全保障条約を付して、昭和二十六年九月二十五日日米講和条約を調印した。行政協定とは、一言で言えば、占領行政が続くと云うことで、親日家の印度のネル首相が、『私は貴方の親友です、親友です』と云つてくる物には、気をつけなければならぬ、と警告してくれたのは、この頃である。ともあれ、日米講和条約は、昭和二十七年四月二十八日に発効して、日本は形だけは独立を回復した。

すなわち、講和条約の信を問う総選挙が新憲法下、はじめて

七条の解散権行使した吉田茂首相のもとで行われた。公職追放から復活した者、戦後の政治家等々、すべての候補者が出揃った混戦となった。一番に問われたのは、アメリカの占領政策の転換に基づく、『再軍備是非か』であった。しかも、崇高なる非戦の理念を盛った憲法を持ちながら、世界で唯一、原子爆弾の洗礼を受けながら、なお、再軍備論者の圧倒的な勝利であった。この日本人の水準は、今も変わらない。丸山先生のお考えは、社会党左派の中でも黒田寿男先生率いる良心派、国鉄労働組合では、民同左派に対して、革同(革新同士会)と称された、所謂労働系に近いものであったろうか?。当時先生は、米子鉄道管理局附属米子鉄道病院の外科の院長で副院長を兼ねておられた。も外科が一番充実している。平和憲法の理念はよく分かっているから、だれと論戦しても負けないと偉そうに帰郷したものの、具体的には、どうやって選挙をやるのか?何も分っていなかった私を、快く迎えてくださった。『考えが違っても(同窓なら)勿論、況んや同土では・・・』と、有難いお言葉を

いよいよ選挙戦が始まってみれば、立会演説会ならぬ順繰り演説、ところが『生卵を飲まないと声が保たない』とアドバイスしてくれる者がいて、何も知らずに、それを鵜呑みにしたか

と云うが、先生のご支援はそんな通り一辺のものではなかった。看護婦さんとはもとより、患者さんまで、態度が一変した。世に、地獄で仏に会う、と云う言葉があるが、正に私が、丸山先生にお遭いした状態そのまゝを、表現したものであろうか。だれも何も云わないのに、病院そのものが、私の選対本部の体をなしてしまつたのである。無我夢中で何も気がつかなかったが、今にして思えば、正に汗顔の至りである。

当時、社会党左派の親分、足鹿寛代議士の向こうを張つて、革同の面々が、国労米子地本の推薦を克ち取るべくいろいろ運動を始めてくれたのである。先生が如何に彼らの心の中に、すごい信頼をもつておられたか、計り知れないものがある。

吉田茂が、国会招集日に、七条解散の大段平を抜いてしまつたので地本の大会を待たずに、選挙戦に突入してしまつたが、先生のご恩の軽重に変わりはない。

いよいよ選挙戦が始まってみれば、立会演説会ならぬ順繰り演説、ところが『生卵を飲まないと声が保たない』とアドバイスしてくれる者がいて、何も知らずに、それを鵜呑みにしたか

ら、トラックに揺られて、胃痛が激しくなり、丸山先生のところの婦長さんと、患者さんに輸血をしてもらって、生き延びたことが忘れられない。襪樓トラックのせいでと新車同然のトラックを持参して最後の二日間連呼カーを運転してくれた人士もあつた。

結果は勿論惨敗、ところが後日、丸山求蔵先生からはがきが届いた。『幡新さんの大きな足跡を思い出しています。』と。西も東も分らないで、生まれて始めて衆院選を闘った弟妹四人に、どんなに暖かい思い遣りであつたことであろう。(横山美保子など、丸山先生と云うと、今でもこのハガキを思い出すと云う。)

何年か後に、丸山先生と云うの副院長であつた松本俊夫先生(昭和二十一年九月京大医学部卒)に会つた。兵庫県の国鉄高砂工場の診療所の所長さんであつた。『丸山先生のところにいるときは、天国にいるようなものだった。そんなことがいつまでの続く筈がないのに・・・丸山先生がおられなくなつたら(確か長野へ転勤されたと思う)全然変わってしまった。今にして思えば、米子の頃は、最良の時代でした。』と。先生の愛

冷ねしの感を深くしたものであつた。先生は遂に、平成十二年十二月十三日に喪くなられた。昨年、ご仏前にお詣りして驚いたことは、賢夫人『米』様も平成十三年三月二十八日に急逝されてい

たことである。晩年の何年かは、診療も退めて、悠々自適の生活を送られた

會津八一記念館について

上村 光司 (50回)

新潟市會津八一記念館の館長に、四月から神林恒道さんが就任されました。神林さんは65回卒、京都大学を出て帝塚山学院大学教授、大阪大学教授、同大学院教授を歴任。一昨年四月から立命館大学院先端総合学術研究科教授。専門は美学で、日本美学会会長、日本学術会議会員、国立美術館運営委員など、この分野の重鎮です。

ご存知のように會津八一記念館は第七回卒業の會津さんの遺作、遺品を収蔵するため昭和五十年四月開館。平成十年六月に新潟市へ寄贈して新潟市會津八一記念館となりましたが、展覧会、講演会など、活動が充実して来ている。そしてこの美術館につながる団体として、秋

という。私の選挙は余程とひよ(途方も無いの方言)だったせいかな? 衆議院が解散すると、今に噂が出る云う。

まことに、丸山先生の人徳である。先生の在天の霊、来り享けよ!(平成15年12月30日稿)

恩師との思い出

菊池 可寿子 (64回)

私達の学年は昭和二十八年四月に入學した。女子は十八人で六人づつ三クラスに入れられた。私のクラスの担任は大黒山平先生で、教科は国語であつた。初め見たときは小柄で、田舎の小父さん風と思つたが、あとで東大卒と分つてびっくりした。私は特に古典の授業が好きで、少し訛りはあつたが解釈の名調子にうっとり聞きほれた。お名前を材料にいつも男子にからかわれて居られたが、怒られた顔を見たことはなかつた。

あるとき教務室に呼ばれ、放課後自宅に寄るように言われて地図を渡された。当時先生は西堀のシモの寺の境内の中の一軒家の住んでおられた。私は何か叱られるのかと恐る恐るお伺いしたのだが将来の志望等を聞かれて「身体が心配だからあまり勉強しないように」といわれてショックだった。当時の私は志望の如何に関わらず成績は良いにこした事はないと思つていたので、せっかくの先生の心配を無視して勉強していたら二年になる春休みから突然ひどい頭痛が始まった。以後思うように

二年のときの一番の思い出

深い先生は池政栄先生である。習つたのは世界史であつたが、授業中ダジャレが次々と飛び出して来るので笑い声が絶えなかつたが、要点はしっかりと筆記させられた。在学中はこれだけの縁だったが、実は私は昭和三十六年から市役所に就職し、ずっと社会教育の仕事に携わつた為に先生が定年退職されて後大変お世話になる事になつた。それは先生が退職された頃新しく開館した「郷土資料館」の初代館長となられたからである。私は当時公民館勤務をしていたので、同じ社会教育の分野でもあるのでよく先生をいろいろな講座、学級の講師にお願いするようになった。そんな時先生は都合がつけばいつでも快く承諾して下さつて、あの独得な熱弁で受講生を魅了して私の仕事を助けて下さつた。今も感謝で一杯である。

又或る時組合のストのため、教育委員会の職員が一部屋に集められて待機させられていたことがあつたのだが、その時先生がつかつかと前に立たれて突然話し始められた郷土出身で石川啄木とも交遊のあつた弁護士で作家の「平出修」の話は心に深い感銘を残した。

職場の宴会でも何度か一緒にさせて戴き、本当に不思議な

職場の宴会でも何度か一緒にさせて戴き、本当に不思議な

縁で長くお世話になった先生
だった。以上三人の先生方は皆
亡くなられてしまったのは実に
淋しい。

又やはり私が市役所に入った
年に石川校長先生が退職され
て、市の教育長になられた。部
屋が同じ六階だったので、よく
同じエレベーターでお会いし二
言三言お話した。あのいかにも

還暦を過ぎて野球を楽しむ

湯浅 一平 (63回)

一 生涯現役

一年間の最大の楽しみが二つあ
る。

その一つが、例年八月十五日
に行われる青山葦原定期戦で、
青山野球部O・Bが世代を超え
て宿敵『葦原』を撃破すべく、
一致団結・和気あいあいに硬式
球を使い世紀の長さでプレー
する(いささか距離がきつい)。
終了後の懇親会(別名:大酒飲
みくらべ)は昔話を交えた野球
談義に花が咲き、毎回お店から
はホウキを立てられるが、締め
くくりは『来年はどちらかの母
校を甲子園に送ろう』の大合唱
で幕となる。

この定期戦には、61回卒業
の大橋恒夫先輩(東京都西東京
市在住)も毎回駆けつけプレー

好々爺というお優しい風貌が目
に浮かぶ。辞められてから県外
へ転居されたと聞くが今はどう
して居られるだろうか。以上の
方々は卒業後も何らかの形でご
縁のあった先生方です。

三年間の高校生活と恩師の
方々との思い出は、これからも
折にふれ懐かしく思い出してゆ
くことでしよう。 終

ヤーの最年長者として元気に活
躍している。

ただ、参加者が『葦原』の
三十名超とくらべ『青山』は十
数名と少なく、監督の77回卒業
大塚忠雄君が毎回苦勞している
ので、出来ればもっと大勢のO・
Bに参加して欲しいと思ってい
る。

二つ目は、参加資格が漫六十
歳以上の還暦軟式野球でプレー
する事である。

定年退職した平成九年に結成
された『新潟エージェレス野球ク
ラブ』に所属し、全国制覇を目
指し多くの仲間と週二回の練習
に汗を流している。今年も県の
代表権を得て九月末に東京ドー
ムで行われる全国大会での活躍
を夢見て、71回卒業の中野久君

とプレーを楽しんでいる。
ちなみに、還暦大会の上に古希
大会(参加資格満七十歳以上)
があるが、前記大橋先輩は古希
大会に西東京市のチームの選手
として出場し活躍している。

二 応援と観戦

その一つは母校野球部の応援
である。

年間を通じ数多くの大会があ
るが、夏の全国大会と秋の北信
越大会は、直接甲子園出場に通
じるため特に力が入る。近年O・
Bの姿をスタンドで見ることが
少ないように思われるが、少な
くとも父母会よりも多くの動
員が出来たらイナと思ってい
る。それと同時に、今年母校

のグラウンドへ出来るだけ足を運
びたいと思っている。

少年サッカーに関わって

北信越クラブユースサッカー連盟副理事長
入沢 郁文 (79回)



とある飲み屋で同級生にばつ
たり会い、ボランティアに関し
て会報に投稿して見ないかとい
う話になり、ついつい引き受け
てしまいました。そもそも私が
当連盟に関わりを持つようにな
ったのも、五年前の友人から
の「一杯やらないか」の電話で
した。私も新潟のサッカーは、
小学生では全国レベルなのに何
故か!中・高校生は全国では勝
てない。そんな状況をくやしく
思っていた折でもあり、東京・
富山での会議に出席するのも自
腹とはつゆしらず、二つ返事
で引き受けてしまい、今では北
信越の副理事長とどっぷりと浸
かっています。

でこそ二十九チームありますが、引受けた時はこの半分しか
なく、資金もスタッフも不足と
いう中で運営せざるを得ず、電
話してきた友人と大会当日の早
朝、ラインを引いて会場をセッ
トし、メンバーチェック、記録
の作成とひとり何役もこなした
ものでした。

今年、中学の部活動が地域ク
ラブ化する中で、当連盟がその
受け皿となるべく中体連との連
携を強化し、組織を充実したも
のにして行こうと考えておりま
す。子供たちの輝く目を見てい
ると、全国制覇も決して夢では
ないと感じます。子供達に連
盟のだれもが果たせなかつた夢
を託し、連盟チームの出身者が
ビックスワンのピッチで、そし
て世界の檜舞台で胸に日の丸を
つけて活躍する日を夢見てライ
ン引きに励んでまいりたいと思
います。



ヤンキースタジアムにて 筆者

新潟県での加盟チームは、今

大学入試結果

全日制の卒業生は 398 名で、例年より若干少ない人数でしたが、卒業式当日に寺田七朗君の宣誓で元良く入会しました。

進学先は 4 年制国公立大学が 271 名、4 年制私立大学が 94 名と前年度より増加し、進学率も 68.6% と過去最高を記録。その原動力は女子で、実に進学率は 76.1% と平成 12 年度からおよそ 20 ポイントも上昇しています。

今春の入試結果の主な特徴をいくつか紹介します。

<国公立大>

- ①合格率が 40% 台に回復
- ②難関大合格者数が減少
- ③国立大学推薦合格者倍増

以上 3 点が本校の入試結果の特徴と言えます。

①については、センター試験科目が 5 教科 7 科目化する中で、生徒はしっかりと学習して国公立大に挑戦した結果と思われます。また、新潟大学が受験に必要な教科・科目が少なく全国から受験生が流入する中、生徒は努力して勉強した結果が合格者 85 名と平成 14 年度に次ぐ合格者を出した大きな要素となっています。

②については、今春のセンター試験が上位者層にとっては得点しやすかったこともあり、苦戦を強いられました。東京大学 3 名、一橋大学 1 名、東京工業大学 1 名というのは最近にない数字です。

③について。大学が独立行政法人になったことや、私立も含めて学科試験だけでは計れない資質を推薦入試や AO 入試で見いだそうとしていることに、生徒が敏感に反応した結果と思われます。3 年間文武両道を実践した生徒達にはおおいに挑戦してほしいと考えています。

<私立大学>

- ①合格者数がここ 6 年間で最高
- ②難関大学で合格者数減少

①については、国公立大との併願や、難関私大との併願がうまく行き、合格者は前年度を上回りました。受験大学数は平成 10 年では約 500 であったものが、今年は約 800 と大きく増加しました。これに比例して合格者数がここ 6 年間で最高となったといえます。

②国立大学と同様に難関大学の合格者数が伸び悩み、数の上では慶應大学で昨年の半分とな

り、率・数ともに 6 年間で最低となりました。私大の易化傾向は難関大学には起きておらず、一層の努力が必要です。

再来年度から新課程入試に変化するため、今課程最後の入試となります。現役生の更なる飛躍を期待します。

母
校
は
今

合格状況

主な国公立大	合格	現役
北海道大学	10	9
東北大学	23	16
千葉大学	8	5
東京大学	4	3
東京工業大学	4	1
東京都立大学	5	5
東京学芸大学	10	8
東京外語大学	4	3
一橋大学	3	1
新潟大学	102	85
金沢大学	2	2
名古屋大学	3	2
京都大学	4	2

主な私立大学	合格	現役
早稲田大学	45	22
慶應大学	27	10
上智大学	9	2
青山学院大学	13	10
中央大学	43	33
法政大学	20	12
明治大学	32	20
立教大学	15	11
東京理科大学	44	18
日本大学	19	12
自治医科大学	2	1
同志社大学	7	3
立命館大学	25	8

事務局より

同窓会報に

寄稿される方に

お願い

会報編集委員会では、寄稿頂いた原稿は原則としてそのまま会報に載せることにしています。

しかし、字数が多くなると、紙面の都合上そのまま載せることが難しくなります。

編集委員会で原稿に手をいれてカットすることもできません。そこで、原稿の字数ですが、是非 八百字から千字の間で書いて下さるようお願いいたします。また、デジタルデータで送付して下さいると編集の時間を節約できますので、是非、原稿とともにフロッピー（FLOPPY）ディスクかメモリーで寄稿して下さいと助かります。

OB会奨励金

について

青山同窓会では各部のOB会に奨励金として年一回二万円を支出しています。

平成十五年度支出クラブは下記のとおりです。

- 山岳部OB会・青山バトミントンクラブ・青山野球倶楽部・サッカー部OB会・青山剣友会・青山艇友会・青山バスケットボールクラブ・青山バレーボールクラブ・青山水友会・青山体友会・ラクビー部OB会・青山ソフトテニスクラブ・青山柔道OB会・陸上競技部OB会・フェンシング部OB会

なお、奨励金をもらったOB会にはOB会報告をしていただきませう、よろしくお願います。



今号より会報の挿絵を池主 憲夫 (68 回) 氏より書いていただいています。

平成 15 年度 青山同窓会会費納入者追加分

(12月3日より5月16日まで納入のもの) 納入先：郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会

- 33回 T15年 長谷川友康
35回 S3年 岡四四亥
37回 S5年 黒川武三郎
40回 S8年 会田俊雄
43回 S11年 森田五郎
44回 S12年 坂井健一夫
46回 S14年 関谷栄太郎
47回 S15年 朝日和
48回 S16年 杉山静也
49回 S17年 工藤弘安
50回 S18年 石本保孝
51回 S19年 笠原仰二
52回 S20年 齋藤泰五郎
53回 S20年 菊地武夫
54回 S21年 久代和夫

- 55回 S22年 佐藤壮一
56回 S23年 指粕川正
57回 S24年 石山齊博
58回 S25年 久保祥一
59回 S26年 市川鉄樹
60回 S27年 今井鐵雄
61回 S28年 大塚和夫

- 南野波誓 62回 S29年 石崎敬
63回 S30年 小金原和
64回 S31年 青野啓
65回 S32年 伊藤不二

- 利津一彦 67回 S34年 矢野勲
68回 S35年 伊草小林
69回 S36年 伊海田英一
70回 S37年 和加藤正
71回 S38年 井大岡小
72回 S39年 石田庄

- 古山恒 73回 S40年 小白田熊
74回 S41年 石今尾金
75回 S42年 大岡齊鈴
76回 S43年 後田名山
77回 S44年 猪股大桑
78回 S45年 相高長水
79回 S46年 青伊植枝川

- 豊島宗 80回 S47年 位田和彦
81回 S48年 片桐裕隆
82回 S49年 石崎昂一
83回 S50年 浅間芳裕
84回 S51年 相田百合江
85回 S52年 雨佐藤隆
87回 S54年 及川朋克
88回 S55年 江波恒夫
89回 S56年 成田小夜子
90回 S57年 池坂文彦
96回 S63年 江部則行
103回 H7年 鈴木康士
109回 H13年 小原美奈子